

生活習慣病管理料について

2024年の診療報酬改定に伴い、高血圧、脂質異常、糖尿病のいずれかを主病名と患者様で『特定疾患療養管理料』を算定していた方は個人に応じた療養計画に基づき専門的・総合的な治療管理を行う

『生活習慣病管理料』へと移行します。

この改定により患者様にはここに応じた目標設定や血圧、体重、食事、運動に関する具体的な指導内容、検査結果を記載した『療養計画書』へ初回のみサインをいただく必要がありますのでご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

また当院では、患者様の状態に応じ28日以上 of 長期の処方を行うことができます。長期処方の対応可能かは病状において担当医が判断いたします。

“生活習慣病”って どんな病気？

さまざまな生活習慣病

生活習慣病というと、一般に高脂血症、高血圧、糖尿病などが代表的な病気としてあげられます。さらに、それらによって引き起こされる動脈硬化や虚血性心疾患、脳血管障害、この他にも、骨粗鬆症や歯周病、がんなど、非常に多くの病気が生活習慣病としてあげられています。

生活習慣病のほとんどは、以前は“成人病”と呼ばれていましたが、原因は、加齢よりも、むしろ食生活、運動不足、喫煙などの誤った生活習慣にあり、時には子供にも起こることが明らかとなっており、今では“生活習慣病”と呼ばれています。

誤った生活習慣の積み重ねによって起こり、一方で、生活習慣の改善によって予防が可能な病気、それが生活習慣病なのです。

- 高血圧
- 高脂血症
- 糖尿病
- 呼吸器疾患
(慢性気管支炎など)
- 高尿酸血症、痛風
- 胃・十二指腸潰瘍
- 肝機能障害
(脂肪肝、肝炎など)



- 脳血管障害
(脳梗塞、脳内出血など)
- 肥満*
- 動脈硬化
- 虚血性心疾患
(狭心症、心筋梗塞など)
- 肺炎
- 骨粗鬆症
- がん
- 歯周病

*肥満は他の生活習慣病発症と深く関わっていることから、生活習慣病の一つにあげられています。

生活習慣病は “沈黙の病気”



高血圧や高脂血症、糖尿病など生活習慣病の多くは、“沈黙の病気”といわれ、自覚症状がほとんどないままに進行します。このため、長い間気づかれずに放置され、ある日突然、激しい苦痛を伴う発作などに見舞われて、重大な結果を招いてしまうことも少なくありません。

生活習慣病に対しては、まず予防に努めること、そして早期発見、早期治療が非常に大切です。

健診受診後の行動が大切です!

危険地帯までの距離さえわかれば、後はそこから遠ざかるのみ!

健診で自身の健康状態が分かったら、改善に向けたアクションが大切。
健診はあくまでも生活習慣改善の必要性や病気を発見するための手段です。

健診結果に異常がなかった方も、引き続きの健康づくり、毎年の健診を!

特定保健指導※を利用しましょう!

① 事業主の皆さま

健診を受けた結果、生活習慣の改善が必要な従業員の方には、特定保健指導のご案内を事業所にお送りしています。特定保健指導のご案内を従業員の方に確実にお渡しいただき、積極的なお声がけをお願いします。



※〈特定保健指導〉とは...

健診を受けた結果、メタボリックシンドロームのリスクのある40~74歳までの方を対象に行う健康サポートです。健康に関するセルフケア(自己管理)ができるように、健康づくりの専門家である保健師または管理栄養士等が寄り添ってサポートします。

医療機関に早期受診を!

① 事業主の皆さま

健診の結果から医療機関への受診が必要にもかかわらず、受診していない従業員の方には、ご自宅に右の通知をお送りしています。事業主の皆さまも、従業員の皆さまの健診結果をご確認いただき、従業員の方へお声がけください。



行動に移そう!



生活習慣病予防健診とは?

生活習慣病の発症や重症化の予防を目的とした血液検査や尿検査、がん検診等、被保険者(ご本人)に受けていただく健診です。



生活習慣病
予防健診で
調べること

● 血圧測定

▶ 血圧を測り、循環器系の状態を調べます

● 尿検査

▶ 腎臓、尿路の状態や糖尿病等を調べます

● 便潜血反応検査

▶ 大腸からの出血を調べます

● 血液検査

▶ 動脈硬化、肝機能等の状態や糖尿病、痛風等を調べます

● 心電図検査

▶ 不整脈や狭心症等の心臓に関わる病気を調べます

● 胃部レントゲン検査

▶ 食道や胃、十二指腸の状態を調べます

● 胸部レントゲン検査

▶ 肺や気管支の状態を調べます

肺 胃 大腸 子宮 乳房

協会けんぽの生活習慣病予防健診は**5大がん**までカバー!